

モンゴル、アルタイ山脈へ

昨年(2017年)の5月、モンゴルの西に位置するアルタイ山脈にスキーとスノーボードの滑走を目的として遠征に行くことができた。

友人のプロスキーヤーから誘いをうけたもので、スキーヤー2名とカメラマン2名、そしてスノーボーダーの僕という5人で出発した。

成田空港から韓国を経由してモンゴルの首都、ウランバートルへ行き、翌日ウランバートルから空路でウルギーという小さな町へ移動した。

ウルギーという町はバヤン・ウルギー県の県都であるが、空港の滑走路は未舗装で、舗装されている場所は町の中心部のみ。砂埃が舞う町にはマーケットがあり、日用品から食料品、衣料品、建築部材など、さまざまな物が売られている。

翌日から約1週間、アルタイ山脈での山籠もり生活のために、僕らもこのマーケットに食材の買い出しに出かけた。

砂漠気候のモンゴルでは野菜や果物などにはありつけないと思っていたが、ロシアやカザフスタンなどからの輸入品で、想像よりも多くの種類の生鮮品が売られていた。おかげで山籠もり中の食生活が充実していたのを覚えている。もちろん日本からも多くの食料品を持ち込み、



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人たちのリレーをしています。

中でも東川産のお米、「ゆめぴりか」が僕らの胃を満たしてくれたことも付け加えておきたい。

ウルギーからアルタイ山脈の入り口までは約200キロの道のりを車で8時間以上の移動となった。

200キロという距離に対して8時間もかかっている理由は、道路の99%が未舗装で、見渡す限りの荒野を突き進むためだ。途中にオアシスの町が1つあったのを覚えている。

モンゴル側のアルタイ山脈は、タヴァン・ボグド国立公園の中にあり、この国立公園の入り口まで車で移動した。さらにその後、ラクダ9頭にゲル2張りという僕らの滑走道具とテントなどの装備を載せて約20キロの道のりを歩いて移動する。

いよいよアルタイ山脈への旅が始まった。

Natures代表 山ガイド 中川伸也

ラクダに荷物を載せてベースキャンプへ昨年5月15日、タヴァン・ボグド国立公園の入り口へ



日本と違う！ 宗教と関係する 韓国の祝日

東川町国際交流員 (CIR) ソンミンジ

韓国でも日本の「国勢調査」に当たる「人口住宅総調査」が5年に一度実施されています。日本と違って韓国では宗教についても質問されます。2015年の調査によると、信者数が百万人を超える宗教は3つありました。まず信者数が一番多かった宗教は、プロテスタント19.7% (967万6千人)、2番目は仏教15.5% (761万9千人)、3番目はカトリック10.6% (389万人) でした。今回は、宗教と関係する韓国の2つの祝日を皆さんに紹介したいと思います。

まず仏教に関する祝日「お釈迦様の誕生日」があります。日付は旧暦の4月8日ですので、毎年日にちが変わります。今年は5月29日、去年は5月3日でした。

祝日当日に限らず、この時期になると韓国のあちら



お釈迦様誕生日の燃灯行列

こちらがお釈迦様の誕生日を祝う雰囲気になります。お寺で盛大なイベントが行われるのはもちろん、街並みの空いっぱいに釈迦様の誕生日を祝う燃灯(堤灯)が取り付けられます。燃灯は、世の中の暗闇を照らし、知恵や慈悲を広げるなどの意味も持っています。ソウルの清溪川では、燃灯やお釈迦様、動物などの張り子が飾られ、多くの人で賑わいます。

そして二つ目、キリスト教に関する祝日「クリスマス」があります。日本でも12月になると、クリスマスツリーが街中で見られたり、イベントが開催されたりしますが、休日ではありません。一方、韓国では国の祝日として指定されています。

この時期は街中がクリスマスの雰囲気になり、祭りやイベントが開催され、家族や友達同士でケーキやチキンを食べながら祝日を過ごします。

韓国では宗教に関する祝日の時期に、特定の宗教の信者だけでなく、一般人や外国人まで老若男女、誰もが祝日を楽しめる祭りやイベントがたくさん開催されます。この期間に韓国を訪れれば、韓国ならではの宗教の祝日の賑わいを肌で感じる事ができるでしょう。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。